

学校評価

保護者・地域住民の皆様へ自己評価結果の報告

～自ら学び 相手意識をもった言動をする子どもの育成に向けて～

1. はじめに

保護者・地域住民の皆様におかれましては、日ごろより本校の教育活動にご理解と多大なご協力をいただき感謝申し上げます。

7月に実施いたしました「学校評価アンケート（児童・保護者・教職員）」の集計結果がまとまりましたので公表いたします。今年度は重点目標である「相手意識」の向上と「子どもの権利」の尊重を軸に全校で教育活動を推進してまいりました。皆様からいただいた温かい励ましや貴重なご指摘を真摯に受け止め、後期の学校教育の更なる改善に活かしてまいります。

2. 集計結果の表示

評価は、『よくあてはまる』、『ややあてはまる』、『あまりあてはまらない』、『まったくあてはまらない』、『わからない』の5段階で実施しました。表内の数値は、上記の5段階の内、『よくあてはまる』『ややあてはまる』を合計した肯定的評価です。

3. 領域別評価結果と後期の方針・回答

【領域Ⅰ】全職員が協働する学校づくり

評価項目・具体的な取組		教職員	保護者	児童(低)	児童(高)
1	学校運営：学校評価結果を活用した組織的・協働的な学校運営の推進	100.0 %	-	-	-
2	服務規律：不祥事防止行動計画の策定とコンプライアンスの徹底	100.0 %	-	-	-
3	特別支援：特別支援学級「ばれっと」と通常学級とのスムーズな連携・指導	95.5%	-	-	-
4	不登校支援：校内適応指導スペース「サードブレイス」の活用と個に応じた支援	86.4%	-	-	-
5	働き方改革：校務DXの推進による業務標準化と教材研究・児童対話時間の確保	95.4%	-	-	-

【領域Ⅰ：後期の方針】

- ・特別支援教育および不登校支援について、支援学級「ばれっと」や校内教育支援センター「サードプレイス」を基軸とした全校的なサポートを今後も進めます。
- ・通常学級も含めて教職員間の情報共有と連携を一層密にし、個々の児童のニーズに寄り添った指導・支援を徹底します。
- ・教職員自身が互いに「相手意識」をもち、心理的安全性の高い職場環境を維持することで、全校体制で子どもたちを温かくサポートしてまいります。

【領域Ⅱ】家庭・地域に信頼される学校づくり

評価項目・具体的な取組		教職員	保護者	児童(低)	児童(高)
6	情報発信：マチコミ・ホームページ・学校だよりによる迅速・丁寧な情報提供	100.0%	97.8%	-	-
7	PTA 活動：PTA 事業の精選・スリム化およびボランティア制への移行推進	95.4%	97.7%	-	-
8	地域連携：地域見守り「近文あい運動」や学校運営協議会（CS）との協働推進	100.0%	96.1%	-	-
9	幼保小中連携：近隣保育園・幼稚園・中学校との一貫した教育活動と交流	100.0%	-	-	-

【領域Ⅱ：後期の方針・アンケート記述への回答】

【マチコミアプリ・通信配付】

通信類はマチコミでのデジタル配信を基本としておりますが、ご家庭の事情に応じた「紙での配付希望」にも引き続き個別対応いたします。下校時刻表等のデジタル化による誤記防止と業務効率化にご理解をお願いいたします。

【PTA 活動のスリム化】

役員選出の負担軽減や専門部の廃止など、保護者の皆様の負担を減らしつつ学校を支えるボランティア体制への移行を進めています。

【地域・ボランティアとの連携】

「近文あい運動」をはじめとする見守り活動やボランティアの皆様へ深く感謝申し上げます。今後も感謝の気持ちを伝える場を設定し、双方向で助け合える地域連携を深めます。

【領域Ⅲ】安全でぬくもりのある学校づくり

評価項目・具体的な取組	教職員	保護者	児童(低)	児童(高)
10 いじめ防止：年2回個人懇談、外部講師 道徳授業、いじめ未然防止・見逃しゼロ	90.9%	81.4%	94.8%	96.7%
11 相手意識：「相手意識」と「子どもの権 利」を尊ぶ自律的な学級づくりの推進	100.0 %	88.1%	94.8%	96.7%
12 規範意識：言葉遣い・忘れ物防止・挨拶 習慣の徹底	95.4%	83.6%	97.0%	93.4%
13 安全管理：廊下歩行、避難訓練、校舎内 外の安全点検、交通ルール	95.5%	95.0%	93.5%	96.7%
14 保健指導・環境美化：清潔な学習環境の 維持、健康相談体制、手洗い・感染症対策	100.0 %	89.3%	96.3%	91.2%

【領域Ⅲ：後期の方針・アンケート記述への回答】

【挨拶・言葉づかいの指導】

玄関前や廊下での声かけ指導を継続し、自発的で気持ちのよい挨拶ができるよう丁寧な底上げ指導を行ってまいります。

【熱中症対策と遠足行事】

熱中症指数（WBGT）の常時計測とエアコン活用を徹底しています。暑さによる遠足延期のご意見を踏まえ、次年度の遠足実施時期および予備日の設定について安全第一で進めます。

【教員のコンプライアンス】

全職員が不祥事防止行動計画を遵守し、子どもの権利を守る温かく安全な環境づくりを徹底します。

【領域Ⅳ】個性を生かし生きる力を育む学校づくり

評価項目・具体的な取組	教職員	保護者	児童(低)	児童(高)
15 教育課程：新しい時代に求められる資 質・能力の育成、教育課程の改善・充実	100.0 %	-	-	-
16 基礎学力：算数少人数・TT 指導、朝活動 5 分間の基礎学習、確かな学力の定着	100.0 %	80.8%	94.1%	92.2%
17 人間関係：コミュニケーション、友達、 教員、地域の方との関わり	100.0 %	85.3%	97.0%	91.1%
18 協力、協働：対話的な学び、ペア・グル ープ学習	100.0 %	88.1%	91.8%	91.8%

19	学習習慣：学習規律「がんばる5」、家庭学習、自主学習の取組	100.0 %	72.3%	93.3%	91.1%
20	教職員の資質能力向上：研修	95.4%	-	-	-
21	調査分析：学力調査、体力テスト、標準学力検査の結果分析	100.0 %	-	-	-
22	専科・少人数指導：外国語、家庭科、算数少人数指導	100.0 %	-	-	-
23	読書指導：朝読書、読み聞かせカタコト、家庭での読書週間	100.0 %	56.5%	94.8%	90.0%
24	ICT：端末活用と手書きノート（アナログ）の融合	100.0 %	76.8%	97.0%	92.8%
25	道徳教育：道徳の授業の充実、多面的多角的な指導	91.0%	87.0%	94.7%	95.5%
26	キャリア教育：夢や希望、自己実現	95.5%	73.5%	97.0%	92.8%
27	体力づくり：体育の授業の充実、マラソン、縄跳び、学級遊び	95.5%	82.4%	97.0%	91.2%
28	給食・食育指導：望ましい食習慣、食育授業	100.0 %	85.3%	96.3%	87.3%

【領域Ⅳ：後期の方針・アンケート記述への回答】

【授業と基礎学力】

全学年での算数少人数・TT指導や朝活動5分間の学習を通じ、「分かる授業」と確かな基礎学力の定着を図ります。

【読書指導】

「朝の読書タイム」を定着させるとともに、読書ボランティア「カタコト」の読み聞かせを後期も計画的に実施し、本に親しむ豊かな時間を確保します。学校司書や図書委員会と連携し、季節や学習単元に合わせた特設コーナー等を設置することで、児童が主体的に本を選べる環境を整え、家庭での読書につなげます。

【タブレット活用とノート学習】

ICT 端末の持ち帰り学習を進める一方で、手書きノートによる思考や計算の重要性も再確認し、デジタルとアナログ双方の強みを活かしたベストミックスの指導を行います。

【領域Ⅴ】学習習慣・生活習慣

評価項目・具体的な取組	教職員	保護者	児童(低)	児童(高)
29 生活習慣：早寝早起き朝ご飯、基本的生活習慣の定着と家庭との連携	-	82.5%	89.5%	80.1%
20 メディア：家庭でのスマホやゲームのルールづくり、アウトメディアの推進	-	82.5%	92.5%	89.5%
21 家庭学習：学年に応じた工夫した家庭学習（自主学習・家庭学習ノート）の定着	-	59.3%	91.8%	71.8%
22 ウェルビーイング：学校に行くのが楽しい（充実感・居場所感）	-	-	94.1%	86.2%
23 自己肯定感：自分の良いところがある（自尊感情の育成）	-	-	93.0%	91.8%

【領域Ⅴ：後期の方針・アンケート記述への回答】

【ウェルビーイングと自己肯定感】

「学校に行くのが楽しい」「自分に良いところがある」と高い自己肯定感が示されました。不安を抱える児童へも個別に寄り添い、温かな声かけを徹底します。

【メディア習慣「スライド 30」】

メディア接触時間が長時間化傾向にあるため、メディア使用時間のうち 30 分を読書や自主学習へ振り替える「スライド 30」を家庭と連携して積極的に推進します。ご家庭におきましては、以下についてお子さんと話し合う機会を設定し、ルール作りにご協力ください。

時間のルール：例）「1 日〇分まで」「就寝 1 時間前（20 時以降）は使用しない」

場所のルール：例）「自室に持ち込まず、リビングで使用する」「夜間の充電は保護者が管理する場所で行う」

安全・マナールール：例）「無断課金はしない」「個人情報や友達の写真をネットに載せない」「困ったことがあればすぐに大人に相談する」

5. おわりに

今回の評価結果を通じて、本校の教育活動に対する温かいご支持と同時に、更なる改善への期待を再認識いたしました。子どもたちが「相手意識」をもち、互いに尊重し合いながら生き活きと学べる学校を目指し、全教職員が一丸となって後期の教育活動に邁進いたします。今後とも本校の教育推進に変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。